

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 19 日現在

機関番号：31304
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008 年～2011 年
課題番号：20592601
研究課題名（和文） 妊娠期からの食事要因及び生活習慣と授乳期間・月経再開時期に関する追跡調査
研究課題名（英文） Dietary, Lifestyle and Lactation with the Menstruation in Puerperium :A Eighteen-month Follow-up Study in Miyagi Prefecture
研究代表者 藤田 愛
(FUJITA MEGUMI)
東北福祉大学・健康科学部・講師
研究者番号：70361269

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：妊娠・食事要因・生活習慣・授乳期間・月経開始時期・食物摂取頻度調査・追跡調査

1. 研究計画の概要

本研究は、平成 20 年～23 年の 4 年間の期間で、次のことを明らかにする。

(1) 妊娠期の栄養状況及び生活習慣と授乳期間との関連を明らかにする。

(2) 授乳継続を阻害する因子と考えられる喫煙・職業・児の哺乳力・授乳回数・本人が受けた授乳方法などとの関連を明らかにする

(3) 妊娠期からの栄養摂取状況および生活習慣と月経再開時期との関連を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

平成 20 年度は、研究協力者の登録を開始した。具体的には、総合病院 1 施設、個人病院 2 施設で出産した褥婦に対し、研究の概要を説明し同意を得られた褥婦に、141 項目食物摂取頻度調査と妊娠・分娩・産後に関する健康調査の質問紙の回答をお願いした。特に、施設の選択では情報バイアスや選択バイアスを最小限にするため、市内の北、西、東にある施設を確保することができた。その後、平成 23 年度までに登録者数は 126 名となった。

登録者には、産後 3 カ月、産後 6 カ月、産後 12 カ月、産後 18 カ月に健康について質問紙調査を郵送法で追跡調査を行った。

平成 23 年 5 月現在、登録者への追跡調査はすべて終了した。

なお、中間で登録 97 名の段階で、妊婦の食事摂取状況と職業の有無について検討した。

職業なし 52 名、職業ありは 45 名であった。この時点で、年齢、出産経験、妊娠中の体重増加、非妊時 BMI、分娩様式、在胎週数、児の出生体重において 2 群に有意差はなかった。

食品群別でみたときに豆類のおから、野菜類の青菜、ブロッコリー、きんぴらにおいて、魚介類のひもの、職業あり群が有意に多く摂取していた。果実類のバナナ、リンゴ、ミカン、藻類のひじき、乳類のヨーグルトは両群ともに摂取頻度が多かった。

食生活の特徴でみたときに、外食をするものが多いのが職業あり群で、インスタント食品を多く摂取するのが職業なし群であった。サプリメントは両群ともに多かった。

本研究対象の妊婦の食生活は、過不足なく摂取している様子がうかがえた。職業あり群のほうが、外食は多いものの、外食を選ぶときに、栄養バランスを考えて摂取していることが示唆された。

3. 現在までの達成度

②概ね順調に進展している。

<理由>

登録者数は平成 23 年までに、126 名となった。追跡調査の中で、産後 18 カ月まで継続的に追跡調査できたデータ数は 88 名であり、69.8%の回収率であった。そのうち中間で、食生活の実態をまとめ、登録集団の傾向を考察できた。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 得られたデータより以下の分析を行う。

- ① 妊娠期の栄養状況及び生活習慣の記述統計
 - ② 妊娠期の栄養状況及び生活習慣と授乳期間との関連を明らかにする。
 - ③ 授乳継続を阻害する因子と考えられる喫煙・職業・児の哺乳力・授乳回数・本人が受けた授乳方法などとの関連を明らかにする。
 - ④ 妊娠期からの栄養摂取状況および生活習慣と月経再開時期との関連を明らかにする。
 - ⑤ 2)～4)の分析はパス解析を行う
- (2) 論文のまとめ
(3) 学会発表ならびに論文投稿

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)